

平成29年度 第1回 開成町協働推進会議 会議録

- 【日 時】 平成29年11月7日（火） 10:00～12:00
【場 所】 開成町民センター 中会議室B
【出席者】 加藤委員長 柄子副委員長 高島委員
浅田委員 中里委員 小田委員
【事務局】 町民サービス部自治活動応援課
- 【議 題】 （１）開成町協働推進計画実施計画の進捗状況について
（２）開成町民活動サポートセンター（仮）の検討について

主旨

町では、町民との協働によるまちづくりを推進するため、協働推進に関し優れた識見を有する方からなる開成町協働推進会議を設置している。

今回の会議では、開成町協働推進計画実施計画について、平成28年度（一部平成29年度）事業評価を報告するとともに、平成29年度計画について意見を伺った。また、7月に開催した開成町民活動サポートセンター（仮）設置検討にかかるワークショップ開催結果報告をふまえて、サポートセンター設置について意見を伺った。

議題1 開成町協働推進計画実施計画の進捗状況について

事務局説明

資料1～6により実施計画の評価方法の変更、実施計画の進捗状況等について説明。

主な意見等

○評価方法の変更として、評価④が新設されたが、このことについて3点質問がある。

1. 既存の評価シートに「協働の形態」があるが、今回新設した評価④「協働の着地点」と関連するところである。どう考えたらよいか。
2. 評価④「協働の着地点」において、（４）その他を選択した場合には、どのような内容かわかるようにした方がよい。
3. 評点をみていくと2点がついているものが多い。2点、3点、4点の違いは。

→1. 「協働の着地点」については、事業を進めていくことで「どうなりたいか」を記載する。例えば、協働の形態「実行委員会」となっている事業は、ゆくゆくは町の事務量を少なくして団体が自立して運営できる

ようにすることが目標となるため着地点は「（１）協働相手が自立して事業運営を行う」となる。時点が違うものと整理している。

2. （４）その他を選択した場合は、評価④のコメント欄に内容を記載している。
3. 評点については、100％達成が4点、80％～99％が3点、50％～79％が2点、11％～49％が1点、10％以下が0点となっている。評価は担当者の主観が出てしまうため、複数の目で評価していく等の工夫が必要。複数の項目のうち、非常に悪いものがひとつでもあると評価全体がその項目に影響されてしまうため、難しいところがある。

○町は協働を進めているわけだが、それぞれの事業で「単独でやったらどうだったのか」「協働でやったからこそ、うまくいった」という点があると思う。評価をする時のポイントとして入れてほしい。また、評価にあたっては、（相手側が）協働を利用してプラスになったことが含まれるとよい。

→（サポートセンターの設置検討）ワークショップなどをやってみると行政だけでは出ない意見もある。定期的に積み重ねていきたい。しかし、町民の意見が評価点に入れることは効果的だが、実際は難しい。

議題2 開成町民活動サポートセンター(仮)の検討について

事務局説明

資料7～9に基づき、ワークショップ開催結果について説明。

主な意見等

○熱心に活動されている方が参加されたので、ワークショップで課題がうまくまとまってきた。町民公益活動団体の活動場所の支援が目的となっているが、これから活動したい方や団体をつくりたい方が情報の収集・発信をできる場所として利用できるようにして、新たに活動に加わってもらえるようにしてほしい。まずは、すでに活動している方の意見を聞くことが必要。相談機能や技術支援機能も考えてほしい。

○公益活動団体は自分たちだけで活動しているものと一般の人を募集して活動するものがあるが、情報が伝わりにくい。町民に広く伝えることは大切。情報コーナーは部屋の中でなく廊下など、見やすい場所に設置すべき。倉庫はスペースに制限があるため、別の場所に考える必要がある。

→今回、初めてサポートセンターを議題として取り上げるが、今後、この会議では諮問するので答申をお願いします。本日、この場ですべてを決めるというよりは、ご案内ととらえてほしい。

町民センターの建物は、1階が保健センター、2階と3階が町民センターとなっている。2階にサポートセンター設置を計画しているが、一つの建物にいくつものセンターがあるというのは町民目線でどうなのか。それぞれのセンター

の管理の問題など、不便さが出てくるところもある。他市町では、町民センターの中にコーナーだけを設けるケースもある。

○サポートセンター自体にどのような機能を持たせるか、コンセプトを決めないと設置方法や運営方法は決められない。「団体の要望を全て実現できるのか」という話もある。現在、町民センターの会議室は町利用が優先になるため、「団体は予約がとりにくい」「利用時間が21時までなので仕事後に利用できない」等の問題がある。

○町民目線ではサポートセンターと町民センターの違いがわからないのでは。コピー機などもすでに色々な団体が利用している。この機能がサポートセンターにつくという話ならば、利用団体からすれば、利用料の問題だけでは。コーディネートなどソフト面のサポートがなく、場所があるだけでは今とかわらないのでは。

→協働に結びつく団体の拠点となるサポートがになるものと考えている。平成32年開設なので時間をかけて会議で検討してもらう。ワークショップは定期的で開催する。設計の基本的なコンセプトも会議の中で決定していく役割がある。

-以上-